

水道スマートメーターの 要求要件を考える

JWRC

公益財団法人 水道技術研究センター

課題		対応	
技術	メーターBOXの浸水に耐える対環境性	実証評価	各種実証実験により、技術的な解決の目処が見えてきている。
	メーターBOXを介しても通信可能な通信技術		
費用	通信機能やバッテリーの搭載によるメーターコストの増加	仕様統一	電力では、メーター・通信仕様を1つあるいは数種に統一し、調達ルールの共通化でコストを削減した。 コスト削減には一定の仕様共通化は必要。取掛かりとして、水道スマートメーターに必要な要求要件の整理が必要との結論。
	ネットワークやデータ管理システムの整備コストが追加		
安全	ネットワーク経由による使用量情報（生活情報）の扱い	安全対策	電気・ガス等の前例を参考にした対策の実施。
運用	収集データの活用策	価値創出	導入効果の幅を広げたり、効果を検証。

アンケートの位置付け

- アンケートは水道技術研究センターが作成し、水道事業体へ御回答をお願いした。
- アンケートの回答は、1水道事業体につき1回答でお願いした。
- アンケートの回答内容は、仮定や推定を含む現時点の見解に基づくものであり
各水道事業体の方針を示すものではない。

御協力頂いた水道事業体

第8回協議会出席 : 8事業体
欠席 : 3事業体
(計) : 11事業体

アンケートの活用

- A-Smartプロジェクトで展開し、企業メンバーとの協議および検討依頼に用いる。
(一般公開はしない)
- 新規に参加頂く水道事業体へもアンケートをお願いする。